学生・公募市民が音楽劇

桜美林大きょうから 賢治の世界描く

桜美林大学で演劇を学ぶ学生と公募に応じた市民が力を合わせて演じる群読音楽劇「銀河鉄道の夜2010」が、21日から3日間、相模原市中央区淵野辺の同大プルヌスホール（JR横浜線淵野辺駅北口）で上演される。市民に芸術への理解を深めてもらいながら、地域文化の振興を図ることを狙いに、3年前から行われている。演劇を学ぶ学生と一般市民が、一緒になってつくるステージは全国的にも珍しいという。

出演者は、同大演劇専修生72人から選抜された11人、応募した市民73人の中からオーディションで選ばれた12人の計23人。市民の年齢は80～12歳と幅広い。

原作者の宮沢賢治が描いた世界を、演技だけでなく、歌、ダンス、そしてジャズ、ピアノの生演奏といった様々なスタイルを組み合わせて浮かび上がらせる。

けいこは16日から20日までの5日間だけという短期集中型で、出演者は同ホールでの1日8時間の練習に汗を流している。

最年長の元小学校長窪野冬彦さん(80)(府中市本町)は「若いころ、劇団の脚本を書いていたこともあり、年齢的にこれが最後のチャンスと思い、初めて役者に挑戦してみた。疲れるが、若い人と一緒のけいこで、充実感がある」と張り切る。

主役のジョバンニを演じる森下なる美さん(21)（4年生）は「市民の皆さんはうまく見せようというところがなく、自然体で演じており、とても新鮮で、勉強になる」と話す。

公演は、21日午後7時、22日午後1、5時、23日午後3、7時の5回。料金は前売り1000円、当日1200円。問い合わせは同ホール（☎042・704・7133）へ。

学生と市民による熱気あふれるけいこ（桜美林大学プルヌスホール提供）